

ギガビットの戦い（第2回） ～ Google Fiberがもたらしたもの ～

執筆者 KDDI 総合研究所 特別研究員 高橋陽一

▼記事のポイント

<サマリー>

Google の超高速インターネットサービス「Google Fiber」が米国のブロードバンド市場に旋風を巻き起こしている。サービス提供地域はまだ限られているが、既に導入された地域では早くもビジネスを効率化させ、都市を活性化させたなどの「Google Fiber 効果」が伝えられている。

また競合他社も増速や料金値下げなどで対抗する動きを活発化させ、都市によっては Google よりも他社の方が先行してギガビットサービスを開始する例も出ている。これまで先進国の中では遅れを取っていた米国のブロードバンドが急速に改善しつつある。

一方、Google Fiber が未だに導入されていない地域では、いつになったら使えるようになるのかが人々の関心事になっており、早期の導入を望む声が高まっているが、大方の期待とは裏腹に、サービス提供地域の拡張がなかなか進んでいないという側面もある。それどころか最近では Google Fiber の拡張凍結や要員削減の動きさえ出ている。

本レポートは 3 回に渡り、Google Fiber が米国のブロードバンド市場に与えた影響について考察する。第 1 回目では、Google Fiber の誕生と足跡をたどりながら、このギガビットインターネットサービスが地域やビジネスにもたらした「Google Fiber 効果」について考察した。第 2 回目となる本稿では、Google Fiber によって刺激を受けた競合他社のサービスに焦点を当て、変革しつつある米国のブロードバンド事情を探る。そして第 3 回目では各社の最近の動向をたどりながら、米国のブロードバンドの最新事情を明らかにするとともに、今後の方向性を探る一助とする。

<主な登場人物>

Google Time Warner Cable/Charter AT&T Verizon Comcast Cox

<キーワード>

ブロードバンド ギガビット 光ファイバ FTTH/FTTP DOCSIS

<地域>

米国

The Gigabit Battle (Part 2) - What Google Has Brought Us

TAKAHASHI, Yoichi

Research Fellow, KDDI Research Inc.

Abstract

Google Fiber, the ultra high-speed internet service provided by Google, is shaking up the US broadband market. Its service areas are still limited, but those who live in the areas where the service has been introduced are, even in this early stage of implementation, reportedly enjoying the "Google Fiber Effect," such as improved efficiency for businesses and revitalization for cities and communities. Google's competitors, on the other hand, are actively hitting back by increasing the speed and lowering the rates for their broadband services. In some cities, competitors lead Google in delivering their gigabit services. While broadband in the US has long been lagging behind many other advanced nations, the situation is now rapidly improving. However, for those who live in the areas where Google Fiber has not yet arrived, the big question is "When will it be my turn?" In spite of the fact that many people are longing for its early introduction, the service has not rapidly expanded. What is worse, Google Fiber recently went so far as to suspend its expansion and to slash its workforce.

This three-part report discusses the impact of Google Fiber within the US broadband market. Part 1, traces the origin and development path of Google Fiber, and attempts to identify the "Google Fiber Effect" that has been experienced in cities and by businesses. Part 2 focuses on competitor services inspired by Google Fiber, and explores the changing US broadband market. Finally, Part 3 covers recent developments to the array of company services to illustrate the current status of the US broadband market, and to help give readers an insight into future developments.

Key Players

Google

Keywords

broadband gigabit Google Fiber

Regions

US

1 はじめに

本レポートは3回に渡り、Google Fiberが米国のブロードバンド市場に与えた影響について考察する。第1回目では、Google Fiberの誕生と足跡をたどりながら、このギガビットインターネットが地域やビジネスにもたらした「Google Fiber効果」について考察した。

第2回目となる本稿では、Google Fiberに対抗して、Time Warner Cable (TWC) /Charter、AT&T、Verizon、Comcast、Cox Communicationsなどの既存事業者がどのような動きを示したかに焦点を当て、変革しつつある米国のブロードバンド事情を探る。

そして第3回目では、Google Fiberと競合事業者のギガビットサービスの最近の動向をたどり、米国のブロードバンドの最新情報を明らかにするとともに、今後の方向性を探る一助とする。

本稿の構成を簡単に述べる。関心のある部分からお読みいただければ幸いである。

2章では、Google Fiberが登場する前の米国のブロードバンド状況について概観する。続く3章、4章では、2010年のGoogle Fiber登場を受け、通信事業者やケーブルTV事業者の対抗策を詳細に解説する。最後の5章では、そうした既存のブロードバンド事業者の活動を一覧し、取りまとめる。

2 Google Fiber以前

Google Fiberが登場する以前の米国のブロードバンド環境は、はっきり言ってお粗末な状態だった。

2-1 先進国の中で遅れていた米国のブロードバンド

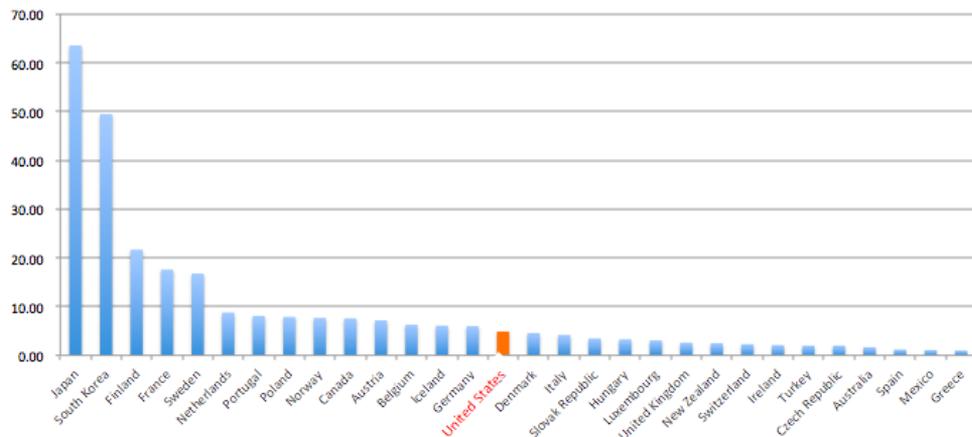
ワシントンDCのシンクタンクのITIF（情報通信・革新基金）が2008年に発表した調査報告書「Explaining International Broadband Leadership」によると、2007年のブロードバンドの普及率、速度、料金の総合評価で米国はOECD加盟国30か国中第15位という冴えない結果だった¹。

普及率（1世帯あたりの加入件数）こそ米国は0.57件で30か国中第10位と、比較的健闘した方だった（トップは韓国の0.93件、第2位はアイスランドの0.83件。ちなみに日本は0.55件で意外と低く、英国と並び第13位）が、速度と料金が弱点だった。

ブロードバンドサービスの下り平均速度（図表1）は30か国の平均が9.2Mbpsのところ、米国は4.9Mbpsで第15位。ちなみにトップは日本の63.6Mbps、次いで韓国が49.5Mbpsとなっている。

¹ <http://www.itif.org/files/ExplainingBBLeadership.pdf>

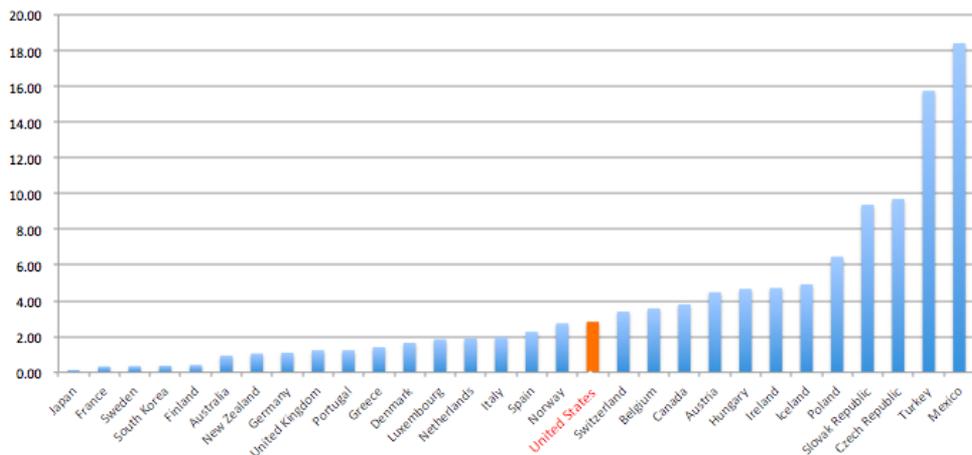
【図表1】 OECD加盟国のブロードバンドの下り平均速度（単位：Mbps）



（出典） ITIFの報告書をもとにKDDI総合研究所で作成

1Mbpsあたりの月額料金（図表2）も日本の0.13ドル、韓国の0.37ドルに対して、米国は2.83ドルと桁違いに高く、30か国中第18位という成績。

【図表2】 OECD加盟国のブロードバンドの月額料金（単位：ドル/1Mbps）



（出典） ITIFの報告書をもとにKDDI総合研究所で作成

世界のリーダー的存在であり、かつインターネット発祥の国としては情けない結果だ。

米国の「遅くて高いインターネット」を改善し普及率の向上を図るため、オバマ政権は2009年2月、米国再生再投資法を成立させた。これに基づきFCCは、2010年3月、1億世帯以上に100Mbps（下り） / 50Mbps（上り）以上のブロードバンドサービスを利用可能にするという長期目標を含む「国家ブロードバンド計画」を策定した。

ところが野心的な計画を策定したのはいいが、これをいかにして実現するかが課題で、膨大な費用負担や低所得者対策やオープンアクセスによる競争促進をどうやって図るかなど、解決すべき問題も多く、既存の通信事業者らの抵抗や反発も予想

された。せっかくの計画が「絵に描いた餅」になってしまう可能性さえあった。

2-2 ケーブルブロードバンドはデータ制限の動き

Netflixなどによるストリーミングサービスの展開やBitTorrentなどのピアツーピアで大容量のファイルをやりとりできる手段の急速な普及などでデータトラフィックが急増し、ネットワークの逼迫が深刻化した。これに対して、ケーブルTV事業者のブロードバンドサービスはデータの利用を制限する方向に動き出した。

TWCは2008年6月にテキサス州ビューモントで、インターネットサービスについて試行的にプランに応じて月間のデータ上限を設定した。例えば下り768kbpsで月29.95ドルのプランでは5GB、同15Mbpsで月54.90ドルのプランでは40GBの上限が設けられた。上限を超えると1GBあたり1ドルの超過料金がかかる。

試行提供の状況を見ながら他の都市にも拡張・本格化することとしていた。これは当然ながら消費者には不評で、例えばニューヨーク州ロチェスターでは何とか我が街に来るのを阻止しようとして反対運動が起こったりもした。

Comcastは2008年10月からブロードバンドサービスに月間250GBのデータ上限を設けた。通常の利用者は概ね月間2GB-3GB程度の利用量であり、この上限で影響を受けるのは1%未満の利用者だとしている。

同年5月の時点では上限を超えると10GBあたり15ドルの超過料金を徴収する案も検討していたが、10月の実施時点では超過料金の適用はしなかった。

その代わりに、上限を超えた顧客に対してはプランの変更や利用の抑制を促し、それでも応じない場合、あまりにも利用が多い顧客に対してはサービスを停止することがあるというやり方をした。

その他の事業者も、例えばCox Communicationsはプランにより月間5GB-75GBの上限を設け、オレゴン州ベンドのケーブルTV事業者のBendBroadbandは月37ドルから65ドルまでの全プランについて100GBのデータ上限を設けるなど、利用を制限しようとする動きが多く、多くの事業者に広まっていた。

増大するデータ需要に対して、投資を増やしてネットワークを増強するよりも、ユーザの利用を制限する方向にプロバイダの目が向いていたということだ。またTVや電話サービスの収入が頭打ちとなる中で、データの上限設定による超過料金が新たな収入源として期待されたという面も否定できない。

プロバイダは「ブロードバンドは儲からない」という考えに凝り固まり、できるだけ投資を抑えて利用を制限する方向に突き進み、ユーザはサービスの条件や使い勝手がどんどん悪くなることで、プロバイダへの不満と不信感が募るといふ好ましくない関係で、これが将来的に改善される様子は見られなかった。

すべての問題の根源は米国のブロードバンドに真の競争がないことであり、それは必ずしもプロバイダが悪いのではなく政府（特に地方政府）の責任が大きいと指

摘する専門家の声も上がっていた¹。

2-3 AT&Tはブロードバンド拡張の約束を破る

AT&Tは2006年に地域電話会社のBellSouthを860億ドルで買収したが、その際にFCCが課した合併条件に従い、2007年末までに提供地域の全世帯にブロードバンドを提供することを約束していた。

ところが2012年11月、条件履行の期限から5年になるというのに、AT&Tの提供地域では今なおブロードバンドの開始を待ちわびている人が大勢いるという状況。Huffington Postがミシシッピ州の片田舎の事情を伝えながら問題を指摘する²。

セドリック・ウィギンズさん(26歳)はAT&Tのブロードバンドを待ちわびている人の一人。トラックドライバーをしていたが解雇されて求職中。インターネットはダイヤルアップしかない。職探しのサイトが表示されるまでに5分もかかるのに閉口していた。これだけが理由ではないが、なかなか仕事が見つからない。

周りの人たちも皆苦勞していた。インターネットが悪くて犯罪捜査が思うように進まない警官。顧客からの質問にメールで答えるためにWi-Fiのあるマクドナルドまで車を走らせている起業家など。

ウィギンズさんは数か月に一度、AT&Tのカスタマーサービスに電話をして、高速インターネットはいつになったら使えるようになるのかと尋ねている。答えはいつも決まって「あなたの地域には今は提供していません」と言われるだけ。

こんな状況であるにもかかわらず、AT&TはFCCに合併の条件を履行したとの報告書を出しているというから驚きだ。しかもFCCはこれを受理しているというからさらに驚きだ。Huffington PostがAT&Tに履行の証拠を見せてくれと依頼したが断られたそう。

FCCは、合併条件を履行したとのAT&Tからの報告を鵜呑みにしたようだ。このようにFCCでは、合併条件が順守されたかどうかを特に確認せず、キャリアからの報告を信頼して処理することが常態化しているという。

それをいいことに、キャリアは合併によるメリットのみを享受し、約束を守らないで済ませているという実態があると同誌は指摘する。

光ファイバの敷設には莫大な費用がかかるので大変なことはわかるが、約束を破

¹ <https://www.wired.com/2013/07/we-need-to-stop-focusing-on-just-cable-companies-and-blame-local-government-for-dismal-broadband-competition/>

² http://www.huffingtonpost.com/2012/11/18/rural-att-customers-merger-Internet_n_1914508.html

ってこれを履行しない一方で、経営幹部は多額の報酬をもらい、株主には寛大な配当金を支払っているのを目にすれば、消費者が反感を抱くのも無理はない。

2-4 VerizonはFiOSを拡張しない方針

Verizonは100%光ファイバのFiOSインターネットを2004年から提供していたが、2010年には提供地域の新たな拡張は行わないとの意向を表明した。2008年のリーマンショックとその後の景気低迷で計画の見直しを余儀なくされたようだ。

FiOS自体の収益性はそれほど悪くなかったが、企業向けの事業部門が大打撃を受け、それを補うためにコストのかさむ光ファイバ網を拡張しない方向に舵を切った。中西部や西海岸の設備と事業を売却して東海岸に集中する計画も進めていた。

FiOS TV提供のためのフランチャイズを既に取得している都市については引き続き光ファイバの敷設を進めるが、それ以外の都市には拡張しないことにし、新たにフランチャイズを申請することもやめ、申請の交渉中だったところについては交渉を中断することとした。

Verizonはさらに2011年12月にケーブルTV事業者3社（Comcast、TWC、Bright House）と契約を締結し、相互にサービスの販売協力ができる体制を整えた。この契約により、ケーブルTV3社は保有していた未使用の周波数をVerizonに売却するとともに、Verizonの回線でMVNO事業ができることとなり、他方VerizonはFiOSを提供していない地域については、ケーブルTV事業者のサービスを再販売することができるようにした。競争よりは協調の動きがますます強くなる兆しを見せていた。

2-5 Cablevisionが101Mbpsサービスを開始

ブロードバンド事業者がことごとくユーザフレンドリーでない動きを示していた中で、異色の存在があった。ニューヨークを提供地域とするケーブルTV事業者のCablevisionだ。

同社は2009年5月、下り101Mbpsのブロードバンドサービスをロングアイランドで開始した。上りは15Mbpsで、料金は月99.95ドル。DOCSIS 3.0技術¹を採用し、当時の米国のケーブルTV事業者によるブロードバンドサービスとしては最速となった。

この地域ではVerizonのFiOSが競合している。当時のFiOSインターネットの最速メニューは50Mbpsで月140ドル程度。Cablevisionはデータの利用を制限する動きも見せず、ひたすら高速・低料金のサービス提供に努めていた。

Cablevisionの101Mbpsサービスに対しては、Verizonが「Parlor Trick（座興）」に

¹ 「DOCSIS」は既存のケーブルTV用回線を使用して高速のデータ伝送を行うための国際規格。

すぎないと批判し、ケーブルTVのプラットフォームの本質的な制約のため、101Mbpsのサービスがあるユーザが利用すると近隣のユーザに悪影響を与える可能性がある」と指摘した。また「そんな高速サービスを望んでいる顧客はほとんどいない」とまで言い切った。

3 Google Fiber以後

Google Fiberが2010年に発表されてから、他の既存事業者もブロードバンドサービスを拡張・高速化する動きを示し始めた。ただ当初は各社ともGoogle Fiberへの対抗意識をむき出しにはしていなかった。

3-1 VerizonがFiOSインターネットを高速化

Verizonは2010年11月、FiOSインターネットに下り150Mbps、上り35Mbpsのメニューを追加した。料金は月200ドル前後¹。それまではFiOSでは50Mbpsが最速だった。101Mbpsのサービスを望んでいる顧客はいないという考えは改めたようだ。

次いで2012年5月には、FiOSインターネットの最上位メニューの下り速度を6月から300Mbpsに引き上げると発表した²。これは当時の米国のブロードバンドでは最速となった。これに伴い、他のプランも（最下位のプランを除き）増速した。

この時期に増速を実施した理由は、ビデオストリーミングやゲームなど、超高速を必要とするアプリケーションの急激な増加や、同時に接続される端末数の増加に伴うユーザニーズに対応するためとしている。

【図表3】 FiOSインターネットの増速内容（左が増速前、右が増速後）

Currently Available Speeds		New Speeds Available in June 2012	
Download	Upload	Download	Upload
150 Mbps	35 Mbps	300 Mbps	65 Mbps
50 Mbps	20 Mbps	150 Mbps	65 Mbps
35 Mbps	35 Mbps	75 Mbps	35 Mbps
25 Mbps	25 Mbps	50 Mbps	25 Mbps
15 Mbps	5 Mbps	15 Mbps	5 Mbps

（出典）Ars Technica³

¹ 1年契約で固定電話とバンドルするという条件で月194.95ドル、1年契約で固定電話とバンドルしないと月199.99ドル、月極め契約で固定電話とバンドルするという条件で月209.99ドル、月極め契約で電話とバンドルしないと月214.99ドル。

² <http://www.verizon.com/about/news/press-releases/verizon-ushers-new-era-consumer-broadband-new-fios-portfolio-features-speeds-75-150-and-300-mbps>

³ <http://arstechnica.com/information-technology/2012/05/faster-than-your-router-verizon-doubles-fios-speeds-to-300mbps/>

Verizonはさらに2012年6月、新メニューの料金を発表するとともに、この新しい超高速インターネットサービスを「FiOS Quantum」と名付けたことも発表した¹。料金は300Mbpsプラン単体で月209.99ドル、2年契約で204.99ドルに設定した。

【図表4】 FiOSインターネットの単体料金

FiOS Standalone Speeds

Single Family	VDSL 1 (speed unchanged)	VDSL2 (speed unchanged)	2-Year Agreement (\$5 contract discount)	Base Rate
3/1 Mbps	3/1 Mbps	3/1 Mbps	\$54.99	\$59.99
15/5 Mbps	10/2 Mbps	15/5 Mbps	\$64.99	\$69.99
50/25 Mbps	20/5 Mbps	20/10 Mbps	\$74.99	\$79.99
75/35 Mbps	30/5 Mbps	50/10 Mbps	\$84.99	\$89.99
150/65 Mbps	n/a	n/a	\$94.99	\$99.99
300/65 Mbps	n/a	n/a	\$204.99	\$209.99

Based on eligibility

Add \$5 if customer doesn't subscribe to Verizon phone service, BAU

(出典) The Verge²

当時の競合サービスと比べると、例えばComcastの最速メニュー（図表5）は105Mbpsで月199.95ドルだったので、Verizonの新メニューは競争力がないこともなかったが、Google Fiberには到底及ばない。FiOSとGoogle Fiberは提供地域が重なっていなかったので対抗する意図はなかったようだ。

3-2 Comcastがブロードバンドを刷新・高速化

Comcastは2010年2月に、TV、電話、インターネットを包含するプラットフォームとサービスの新ブランド「Xfinity」を導入した。

2011年4月には、Xfinityインターネットサービスにおいて、下り105Mbps、上り10Mbpsの新メニュー「Extreme 105」を追加し、サンフランシスコ、シアトル、フィラデルフィアなどの主要都市の4,000万世帯以上で利用可能になったと発表した。

少なくとも見かけ上はCablevisionの101Mbpsよりもわずかながら速い。DOCSIS 3.0技術を採用し、HDムービーを5分でダウンロードできるなどと宣伝した。

最初の12か月間の料金はプロモーションとして月105ドルと、Comcastとしては思い切って低額に抑えたが、これはトリプルプレイで利用することを条件としたもので、単体で月199.95ドルという料金は決して安くはない。

¹ <http://www.fiercetelecom.com/telecom/verizon-unveils-prices-for-its-new-fios-quantum-ftp-service-lineup>

²

<http://www.theverge.com/2012/6/2/3059741/verizon-fios-new-pricing-internet-plans>

【図表5】 Xfinityインターネットの料金表（2012年3月時点）

PACKAGE	DOWNLOAD SPEEDS UP TO	CONSTANT GUARD™ Online Protection	XFINITY CONNECT Email + Voicemail + Contacts	NEW CUSTOMER PRICE
Performance	20 Mbps with PowerBoost®	✓	✓	Online Exclusive \$29.99/mo for 6 months \$1.995 START SHOPPING →
Performance Starter	6 Mbps	✓	✓	\$49.95/mo START SHOPPING →
Blast!®	30 Mbps with PowerBoost®	✓	✓	\$72.95/mo START SHOPPING →
Extreme 50	50 Mbps	✓	✓	\$114.95/mo START SHOPPING →
Extreme 105	105 Mbps	✓	✓	\$199.95/mo START SHOPPING →

（出典）Comcast/caseyfriday.com¹

2012年5月にはデータ上限をこれまでの250GBで固定する方法から300GB以上で柔軟に適用する方法に移行した。下位のプランは300GBとし、上位のプランは速度に応じて上限を増やしていく方法と、すべてのプランを300GBにする方法のいずれかを、都市によって試行的に適用し、最適な方法を模索することとした。

さらに2012年7月、ComcastはXfinityインターネットの「Blast!」と「Extreme 50」のメニューを増速（「Blast!」は25Mbpsから50Mbpsへ、「Extreme 50」は50Mbpsから105Mbpsへ）するとともに、新たに305Mbpsのメニューを追加した。

「Extreme 305」は下り305Mbps、上り65Mbpsで料金が月299.95ドル。単体料金のみでバンドル料金は設定されていない。専門家による24時間365日のサポートサービス（月19.95ドル相当）やWi-Fiルータのレンタルやセキュリティ保護サービスなどが含まれる。

技術方式はFTTPを採用し、企業向けの「Metro Ethernet」と同様のサービスとなる。Wi-Fiルータはケーブルモデムと電話用アダプタが一体となった新型の「Xfinity Wireless Gateway」で、当時の家庭用Wi-Fiルータとしては最速の155Mbpsをサポートする。

提供地域を北東部の州に限定し、Verizonの最高速度よりも5Mbps上回るように表示したことから、明らかなVerizonへの挑戦だが、料金的にはそれほど競争心を露わにしていない。

305Mbpsのサービスは同年9月に開始されたが、ユーザの反応はあまり良くなかった。ユーザのフォーラムサイトには、こんなサービスを誰が利用するのかといった反応が寄せられた。月200ドル以下の料金を期待していたユーザが多かったようだ。

「Extreme 305」を試しに利用してみたというユーザからの情報を、DSL Reports

¹ <https://caseyfriday.com/2012/03/why-does-public-wifi-suck-so-much/>

が紹介している¹。それによれば、このサービスは3年契約となり、3か月以内に解約すると1,111ドルの解約料がかかる。それ以降の解約料は日割りとなる。

月々の支払額はトータルで320ドル。それに加えて、アクティベーション料が249ドルと、設置工事費が249ドル、合計で約500ドルという高額の一時金がかかるという情報に対しても、驚きや批判のコメントが寄せられた。

3-3 TWCが1Gbpsの光ファイバ網構築を発表

2012年8月、TWCは、2,500万ドルを投資してニューヨーク市で1Gbpsの光ファイバ網を構築すると発表した。タイミング的にこれはGoogle Fiberへの対抗・追随であると多くのメディアが報じたが、これは多くの点でGoogle Fiberとはまったくの別物であるとBloombergが指摘する²。

同記事によれば、Google Fiberと同じなのは光ファイバを敷設することと1Gbpsのサービスを提供することだけ。それ以外は何も共通するものはないという。

TWCが発表したのはニューヨークのオフィスビルを光ファイバで接続するというもので、作業としては既存の光ファイバをビルまで延長するだけ。地域的には狭く、ビル内の配線はテナントの負担となる。

Googleはカンザスシティの一部を光ファイバで接続するだけで5億ドルから8億ドルを投資したとのアナリストの見積りがある。TWCの投資額とは雲泥の差であるばかりか、事業のリスクや困難さのレベルもまったく違う。

TWCはその発表時点で、既にエンパイアステートビルへの光ファイバの接続を終えていた。すなわち、この計画は前々からあったもので、しかも既に完了している部分もあり、発表された投資額には既に完了済みの分も含まれていると考えられる。

したがって、TWCの今回の発表は今までやってきたことの延長であり、新たに何か革新的なことをやるわけではない。

またGoogleは1Gbpsの回線を各顧客宅内につなぎ込むが、TWCがつなぎ込むビルには数千人が働き、その顧客数は1つのビルで数百件にも上ると見られる。密集度が違うので顧客1件あたりのコストもまったく違ってくる。

さらにGoogle Fiberは住宅向けなので1Gbpsサービスの料金は月70ドル（TVサービスとセットにすると月120ドル）に抑えているのに対し、TWCのサービスはビジネス顧客向けとなるので、住宅向けよりもっと高い料金（通常は住宅向けの5倍、内容によってはそれ以上）が設定される。

そもそもGoogleとTWCでは発想が違う。Googleは住宅用ブロードバンドの現状や

¹ <http://www.dslreports.com/forum/r27682772-Getting-305-65>

² <http://www.bloomberg.com/news/articles/2012-08-29/time-warner-cables-nyc-fiber-rollout-nothing-like-googles>

収益構造を変革するためにネットワークを構築しているのに対し、TWCは通常業務の一環でしかない。

そういうわけで、「ギガビット」と「ファイバ」が入っているからといって、TWCのニューヨークでの1Gbpsネットワーク構築計画をGoogle Fiberと同じものとみなしてはいけなと、同記事は注意喚起している。

4 Google Fiberへの対抗の動き

Google Fiberの登場によって、当初それほど影響はないだろうと高を括っていた既存事業者が、徐々に危機感や対抗意識を強めていく様子が見えてくる。カンザスシティはケーブルTVがTWC、固定電話はAT&Tの縄張りだ。Google Fiberで一番影響を受けそうなのがTWCだった。

4 - 1 TWC : 「Google Fiberは脅威ではない」

2012年9月、Bank of America/Merrill Lynchの投資家向け会合で、TWCのCFOのIrene Esteves氏はGoogle Fiberについて、「TWCの全体的なビジネスからすれば脅威ではない」と述べた¹。

Googleがカンザスシティで提供しようとしているのは最終的に30万世帯と見られる。同地域におけるTWCの顧客数はインターネットが10万世帯とTVサービスが10万世帯。TWCの全国の顧客数からすれば1%に満たない。

Googleがカンザスシティでの「実験」を超えて拡張を行うことには、経済的に意味のあるビジネスモデルが成り立つとは考えにくい。よって脅威があるとしてもローカルの域を出ない。たとえ顧客を奪われたとしても全体の1%未満というレベルの話なのでほとんど影響はない、という理屈だ。

4 - 2 TWCとAT&Tは市に公平な待遇を要請

一方、GoogleがカンザスシティへのFiberの導入にあたって同市から数々の優遇措置を受けたことに対して、TWCとAT&Tは不公平であるとして、同様の待遇をしてくれるよう同市に申し入れたと、The Wall Street Journalが伝えた²。

Googleが受けた優遇措置としては、まず市が保有する施設を無料または減額して使わせたことが挙げられる。例えば架設に伴う電柱の使用料として、TWCは電柱1本につき年間18.95ドルを市に支払っているのに対し、Googleは10ドルしか払ってい

¹ <http://www.lightreading.com/broadband/fttx/tw-cable-sizes-up-google-fiber-threat/d/d-id/698345>

² <http://www.wsj.com/articles/SB10000872396390443862604578030671101065746>

ない。その上事前調査や許認可にかかる費用もGoogleには免除した。

オフィススペースや設備の電源などもGoogleに対しては市が無料で提供した。光ファイバ、建物、土地、コンピュータ機器などの市の資産やインフラも無償で使わせた。市の職員によるチームがGoogleのプロジェクトの専担業務を行ったりもした。

Googleのギガビットのマーケティングや教育・訓練も、DMの発送やコミュニティでの集会のアレンジを含め、市の管理の下で実施していた。

また事前申し込みで需要を確認し、一定の需要がある区域にのみサービスを提供するというGoogle特有の方法を認めたことも、両社にとっては不公平な扱いと映っている。両社ともフランチャイズを取得した地域については全世帯にサービスを提供する義務を負っていたからだ。

一方、そのような申し入れを受けた市の側も黙って従う様子はない。Googleと同様の扱いを求めるのなら、Googleが行ったのと同様のコミュニティ貢献活動をしてもらいたいと述べ、例えば市が指定した数百か所の施設に無料でギガビットを提供することを約束するなどの措置を求めた。

同記事の掲載時点（2012年10月）ではTWCはミズーリ州カンザスシティとは「Google並み」の条件について合意に至り、カンザス州カンザスシティとは数か月にわたる協議を続行中としている。

AT&Tもミズーリ州カンザスシティと協議中であるとの情報が関係者から非公式に伝えられたが、協議の事実を含め正式なコメントは控え、「すべての消費者が公平な競争の恩恵を受けられるよう、業界のルールと規則を見直すべきときに来ている」と述べるに留めている。

4 - 3 TWCがブロードバンドを増速

2012年12月、TWCはカンザスシティにおけるブロードバンドサービスを増速した。それまでの最速は50Mbpsだったのを100Mbpsに引き上げ、他のメニューもそれぞれ増速した¹。（図表6）

TWCの提供地域は他にもニューヨーク、ロサンゼルスなど主要都市も含めて多数ある中で、今回の増速はカンザスシティのみが対象となった。Google Fiberへの対抗意識が明らかだ。ただし正式発表はせず、次項のように顧客に個別に連絡することにより実施した模様だ。

¹ <http://www.multichannel.com/news/cable-operators/twc-kicks-broadband-download-speeds/326108>

【図表6】 TWCのブロードバンドプランの新旧速度

プラン	旧速度	新速度
Ultimate	50/5 Mbps	100/10 Mbps
Extreme	30/5 Mbps	50/5 Mbps
Turbo Pass	15/1 Mbps	20/2 Mbps
Standard	10/1 Mbps	15/1 Mbps
Basic	3/1 Mbps	10/1 Mbps
Lite	1Mbps	5/1 Mbps

(出典) Multichannel Newsの情報をもとにKDDI総合研究所で作成

4-4 TWCが顧客に個別プロモーションを実施

2013年1月にConsumeristに掲載された記事では、TWCが特定の顧客に個別にプロモーションを実施していた様子がうかがえる¹。突然一方的に増速と値下げをしたというユーザ体験が紹介されている。

ロブさんはカンザスシティに住むTWCの顧客。最近、2回に渡ってTWCから寛大な措置を受けた。第1弾として、メールで「ベーシック・レート」のインターネットの速度が10Mbpsから15Mbpsに増速されることが通知された。

第2弾として、その後来た請求書を見ると、それまで44.99ドルだった請求額が29.99ドルに減額されていた。請求書には「30%割引」とか「23.96ドルの割引」と書いてあった。実際には14.95ドルの割引なので少し計算が合わない。

それにしても、こちらから要望したわけでもないのに、TWCは何で一方的にこんな寛大なプロモーションをしてくれたのだろうとロブさんは首をかしげる。

おそらくGoogleが近所に来ているからだろうと推察されるが、ロブさんの住所は正確にはGoogle Fiberの提供区域にはなっていないという。TWCはそんなに危機感を抱く必要はなかったのに、とロブさんは語っている。

4-5 TWC：「消費者はギガビットを必要としていない」

2013年2月、Morgan Stanleyの技術コンファレンスで、TWCのCFOのIrene Esteves氏が、「消費者は1Gbpsのサービスなど必要としていない」と述べ、Google Fiberが消費者に与えるインパクトを否定した²。

¹ <https://consumerist.com/2013/01/30/time-warner-boosts-my-speed-cuts-my-bill-i-just-happen-to-live-near-google-fiber/>

² <http://www.theverge.com/2013/2/27/4036128/time-warner-cable-no-consumer-demand-for-fiber-gigabit-internet>

TWCはビジネス向けには既に1Gbpsや10Gbpsなどのサービスを提供しており、消費者向けにもそれを提供することは技術的には十分可能だが、一般の消費者はそんなサービスにほとんど興味を示していないと述べた。

TWCとしては、あくまでも消費者が必要としているものを、それよりもほんの少し先取りする形で提供するというスタンスを維持しており、その観点からは現状に満足していると述べた。

4 - 6 CenturyLinkがギガビットに参戦

ギガビットへの参戦を早々と表明したのは、米通信第3位のCenturyLinkだった。同社は2013年5月、ネブラスカ州オマハの一部の地域で1Gbpsサービスの試行サービスを行うと発表した。ここはGoogle Fiberの提供地域ではなかったが、Googleがカンザスシティに与えたインパクトに触発されたもの。

この発表はGoogle Fiberの選考に敗れて失望していたオマハの住民やビジネスに希望を与えた。同都市圏はIT関連の人材やスタートアップの誘致を図っていたところで、ギガビットは強力なセールスポイントになると期待された。

まずは5月からオマハ西部の9,800件の家庭や企業を対象として実施し、10月には48,000件の顧客をカバーする計画。この地域はCox Communicationsとの主戦場だ。Coxのブロードバンドの最上位メニューは下り150Mbps、上り20Mbpsで月99ドル。

CenturyLinkはFTTP方式で下り、上りとも1Gbpsの速度を提供する。住宅用サービスの料金は単体で月149.95ドル、他のサービスとバンドルする場合は月79.95ドル。

さらに2013年10月には、ラスベガスの一部地域でも住宅向けとスモールビジネス向けにギガビットを提供すると発表し、同年12月に提供を開始した。もはや「試行」の言葉は見当たらず、本格サービスに移行して拡張モードに入った模様だ。

4 - 7 Verizonが500Mbpsサービスを開始

2013年7月、VerizonはFiOSのQuantumインターネットサービスにおいて、下り500Mbps、上り100Mbpsのサービスを開始したと発表した。当初は一部の地域でスタートし、2014年末までにFiOS顧客の70%以上に提供可能にする予定。

500/100Mbpsのサービスで何ができるかについては、2MBの設計図の青写真が0.03秒でダウンロード、0.16秒でアップロードでき、5GBのHDムービーが1.4分でダウンロード、7分でアップロードできるなどと宣伝した。

500Mbpsサービスの住宅向けの料金は単体で月299.99ドル、ダブルプレイは月309.99ドルから、トリプルプレイは月329.99ドルから。スモールビジネス向けは単体のみの提供で月369.99ドルからに設定された。

4 – 8 C SpireはGoogleの完全コピー

ミシシッピ州のワイヤレスキャリアのC Spireは2013年9月、光ファイバによる1Gbpsのブロードバンドサービスを「米国で」提供すると発表した。

同社はミシシッピ州を拠点にしていることから、同州で提供されるであろうことは想定されたが、どの都市で提供するかは示さず、「Get Fiber First」キャンペーンを開始した。

地域の住民や企業や自治体・コミュニティ関係者などから、なぜ我が街にギガビットが必要かについてのプレゼンを募集し、それによって提供地域を決定することとした。これは完全にGoogleのコピーだ。

同社はこの方法で2014年3月までにミシシッピ州内の9都市でファイバ敷設作業を開始した。1Gbpsサービスの料金は単体で月80ドル、同社のワイヤレスサービスを利用している顧客には月70ドルで提供した。

4 – 9 Comcastは505Mbpsサービスを開始

2013年9月、Comcastは最上位プランの速度を、これまでの下り305Mbps、上り65Mbpsから下り505Mbps、上り105Mbpsに増速した。技術方式は増速前と同じくFTTPで、企業向けの「Metro Ethernet」と同様のサービスだ。

料金も増速前と変わらず、基本的には月299.95ドルだが、地域によっては月399.95ドルに設定されたところもあったようだ。

特に399.95ドルに設定された地域については、料金の法外な高さに驚くコメントや、「冗談だろう」などと、否定的・批判的なコメントがユーザから寄せられた。Washington Postも、Comcastは独占企業のように振舞っていると批判している¹。

4 – 10 TWCは100Mbpsサービスの地域を拡張

2013年10月、TWCはこれまでカンザスシティのみで提供していた100Mbpsサービスを他の地域にも拡張すると発表した。対象地域はロサンゼルス、ニューヨーク市、ハワイ。

これまで50Mbpsの「Ultimate 50」プランを利用していた顧客については、無料で100Mbpsの「Ultimate 100」にアップグレードする。

アップグレード作業はロサンゼルスで既に開始し、ニューヨークとハワイは2013年末までに開始予定。2014年初めには対象都市の全顧客に提供することとし、また他の都市にも拡張を検討することとした。

¹ <https://www.washingtonpost.com/news/the-switch/wp/2013/10/01/these-charts-show-comcast-acting-more-and-more-like-a-monopolist/>

4-1-1 AT&Tが「GigaPower」をオースティンで開始

2013年4月にGoogle Fiberが「次の停車駅はテキサス州オースティン」と発表したその数時間後、AT&Tもオースティンで1Gbpsサービスを開始すると発表した。料金や開始時期などの詳細は明らかにしなかったが、とにかく開始すると発表した。

カンザスシティでは反応しなかったAT&Tが、オースティンでは即座に反応した。オースティンはIT企業も多数集まる重要な市場と目されている。ここをGoogleに奪われてなるものかという意地が感じられる。

さらに2013年10月、AT&Tはオースティンで開始するギガビットサービスの詳細を発表した。サービス名称は「AT&T U-verse with GigaPower」とし、開始は同年12月。AT&Tとしては初めての100%光ファイバによるブロードバンドサービスとなる。

最大1Gbpsの速度を提供するが、当初は下り、上りとも300Mbpsで開始し、2014年央までに無料で1Gbpsにアップグレードすることとした。

1Gbps（当初は300Mbps）サービスの料金は単体で月70ドル、TVサービスとのバンドルは月120ドルと、Googleに対する明らかな対抗姿勢が示されている。

AT&Tの顧客維持・獲得活動も積極的だった。AT&TのDSLからGoogle Fiberに乗り換えようとした顧客に対して、AT&Tは素早くGigaPowerを提案して移行を阻止した例をCNETが紹介している¹。

オースティン在住でシューティングゲームが大好きなダラス・ミラーさん（28歳）は、AT&T U-verseの20Mbpsのインターネットを使っていたが、常にフラストレーションを感じていた。

ゲームが途中でよくフリーズし、アバターが身動きできなくなることがあった。別のときにはシューティング中にバッファリングか何かでゲームが一時的に止まり、また動き出したときには敵が突然別のところに現れるということもあった。

当時は20MbpsがU-verseの最高速度。しかもこの速度が出たことは一度もない。Googleが2013年4月にオースティンでギガビットの事前申込みの受付を開始したとき、ミラーさんは、これで問題が解決すると思って早速申し込んだ。

するとAT&Tから電話がかかってきた。GigaPowerの勧誘電話だった。当初の速度は1Gbpsではなく300Mbpsになると言われたが、それでもそれまでよりも15倍も速い。しかも料金がそれまでの月208ドルから120ドルに下がるという。

さらに翌年に1Gbpsの速度が利用可能になった際には無料でアップグレードされるという。至れり尽くせりの条件で、ミラーさんは迷わずそのオファーを受け入れたそうだ。

¹ <https://www.cnet.com/news/googles-fiber-effect-fuel-for-a-broadband-explosion/>

オースティンでの300Mbpsから1Gbpsへの無料アップグレードは、2014年8月から作業を開始し、同年10月には完了した。

Google Fiberがオースティンで事前申し込みの受付を開始したのは同年12月のこと。AT&Tは何とかGoogleよりも前に同市でのギガビット提供にこぎつけることができた。AT&Tの意地がここでも発揮された。ただし後述のGrande Communicationsには先を越されていた。

4 – 1 2 TWCがオースティンで300Mbpsに増速

Google Fiberのオースティンへの拡張に対しては、TWCも10か月遅れで反応した。2014年2月、同社はオースティンのブロードバンドを増速すると発表した。ただしまだギガビットの提供には至っていない。

それまでの最高速度が下り50Mbps、上り5Mbpsだったのを、下り300Mbps、上り20Mbpsに増速するというもの。またこれに合わせて他のプランもそれぞれアップグレードされた（図表7）。アップグレード作業は同年6月から開始した。

技術方式はDOCSIS 3.0を採用。TWCからケーブルモデムをレンタルしている顧客に対しては無償で対応モデムへの交換を行った。なお、同市のTWCの顧客は10万件以上に上る。

【図表7】 TWCのオースティンにおけるブロードバンド増速内容（下り/上り）

プラン	増速前	増速後	月額料金
Ultimate	50/5 Mbps	300/20 Mbps	69.99ドル
Extreme	30/5 Mbps	200/20 Mbps	59.99ドル
Turbo	20/2 Mbps	100/10 Mbps	49.99ドル
Standard	15/1 Mbps	50/5 Mbps	39.99ドル
Basic	3/1 Mbps	10/1 Mbps	29.99ドル
Everyday Low Plan	2/1 Mbps	3/1 Mbps	14.99ドル

（出典）TWCの発表資料等をもとにKDDI総合研究所で作成

4 – 1 3 Grande Communicationsがギガビットに参戦

テキサス州のローカルのブロードバンドプロバイダであるGrande Communicationsもギガビットに参戦した。同社は2014年2月、AT&TやGoogleに先駆けて、オースティンで1Gbpsサービスを開始した。

FTTH方式により、下り、上りとも1Gbpsの速度を提供する。契約の縛りはなく、データ量の上限もなく、しかも料金は月64.99ドルと、Google Fiberよりも5ドル安くした。当時の同社のオースティンにおける顧客数は約75,000件。

【図表8】 Grande Communicationsのブロードバンド料金表

プラン	速度（下り/上り）	月額料金
Power 1000*	1000/1000 Mbps	64.99ドル
Power 400*	400/20 Mbps	64.99ドル
Power 300	300/20 Mbps	54.99ドル
Power 200	200/20 Mbps	44.99ドル
Power 50	50/5 Mbps	34.99ドル
Power 15	15/1.5 Mbps	29.99ドル

* Power 1000の提供地域は限定的。提供地域外ではPower 400になる。

（出典）Grandeの発表資料等をもとにKDDI総合研究所で作成

4 - 1 4 AT&TがGigaPowerの拡張可能都市を発表

Google Fiberが2014年2月に、今後拡張する可能性のある地域として、9都市圏の34都市を発表したのに続き、同年4月、AT&TもGigaPowerを拡張する可能性のある地域として100都市を発表した。

【図表9】 GigaPowerの拡張可能性のある都市（青色のマーク）

AT&T EYES 100 U.S. CITIES AND MUNICIPALITIES FOR ULTRA-FAST FIBER

The increasing popularity of streaming video, online gaming, cloud-based business services, and the growing need to have multiple devices connected to your home Internet at one time continue to drive the need for speed. AT&T's new ultra-fast fiber network – delivering speeds up to 1 Gbps* – offers you the speed you need to keep all of those devices humming.



（出典）AT&Tの発表文書

今後、各自治体と協議をしながら、提供都市を検討し決定することとした。「協議」の中身は迅速な許認可やインフラの利用に関して自治体がどれだけ協力してくれるかということ。これはどこかで聞いたような。

同年6月にはノースカロライナ州のローリー・ダーラム・チャペルヒル広域都市圏とウィンストン・セーラムに拡張することで自治体と合意に至ったと発表。それ以降も続々と提供予定都市を増やし、同年8月にはテキサス州ダラス・フォートワースとその周辺で1Gbpsサービスを開始したと発表した。

4 - 1 5 Cox Communicationsも2014年内に参戦

ギガビットに関してこれまで他社の動きを見守ってきたCox Communicationsは2014年4月、年内に1Gbpsのサービスを提供すると発表した。Google Fiberが拡張する可能性があるとして発表した34都市の中にアリゾナ州フェニックスが入っていたことに反応したようだ。

ここはCoxの縄張りだ。Googleが脅威であるとは言わなかったが、ブロードバンド市場で影響力を増しているのは無視できないとして動き出したもの。

とりあえず同年7月から10月にかけて、ブロードバンドの増速を実施し、それまでの25Mbpsを50Mbpsに、50Mbpsを100Mbpsに、100Mbpsを150Mbpsにそれぞれ高速化した。

次いで同年10月にアリゾナ州フェニックスとバージニア州チェサピークで、同年12月にはカリフォルニア州アーバインで、それぞれ1Gbpsの「G1GABLAST」を開始したと発表した。CenturyLinkとの主戦場になっているラスベガスとオマハでもまもなく開始すると述べた。

当初はFTTH方式を採用するが、2016年中にはDOCSIS 3.1を採用して他の地域にも1Gbpsサービスを拡張することとした。料金は単体で月99.99ドル、他のサービスとバンドルすることを条件に月69.99ドルで提供することとした。

4 - 1 6 Verizonが上り速度を増速

2014年7月、VerizonはFiOSインターネットにおいて、上り速度を増速して下り速度と同一にした。これまでの最上位プランは、下り500Mbps、上り100Mbpsだったのを、下り、上りとも500Mbpsにした。他のメニューもすべて上下とも同じ速度にした。

【図表10】 FiOSインターネットの新旧速度

Current Tiers		Downloads = Uploads	Upload Increase
500 Mbps / 100 Mbps	500 Mbps = 500 Mbps	5.0x	
300 Mbps / 65 Mbps	300 Mbps = 300 Mbps	4.6x	
150 Mbps / 65 Mbps	150 Mbps = 150 Mbps	2.3x	
75 Mbps / 35 Mbps	75 Mbps = 75 Mbps	2.1x	
50 Mbps / 25 Mbps	50 Mbps = 50 Mbps	2.0x	
----	25 Mbps = 25 Mbps	----	
15 Mbps / 5 Mbps	15 Mbps = 15 Mbps	3.0x	

(出典) Geek¹

4-17 CenturyLinkはギガビットを16都市に拡張

2014年8月、CenturyLinkはギガビットサービスを16都市に拡張すると発表した。地域により、デンバー、ポートランド、シアトルなど10都市には住宅向けとビジネス向けの両方を提供し、フェニックスなど6都市にはビジネス向けのみを提供するという内容。

さらにその数日後にはウィスコンシン州のプラットビルでも、住宅向けとビジネス向けに提供すると発表するなど、拡張モードを加速させている。

4-18 「Googleメソッド」がキャリアに拡散

2014年8月22日付のThe Wall Street Journalは、Googleの「Fiberhood」方式が他のキャリアにも広まり始めたと報じた²。

AT&TとCenturyLinkが「十分に需要のある地域についてのみファイバを敷設する」方式を採用した。VerizonはFiOSを拡張しない方針だが、もし拡張を再開することになった場合には同様の方式を採用するかもしれないと述べた。

同紙は上述のC Spireの「Google完全コピー」についても言及し、「Fiberhood」という名称までそのまま採用し、事前申込みを実施して一定の比率に達した地域につ

¹ <http://www.geek.com/news/verizon-just-boosted-fios-upload-speeds-by-as-much-as-500-1599904/>

² <http://blogs.wsj.com/digits/2014/08/22/googles-fiberhood-strategy-is-spreading/>

いて1Gbpsのインターネットを提供するなど、まさにGoogleのやり方をそのまま踏襲していると指摘した。

違いがあるとすれば、Googleは「一定の比率」を世帯数の5%から25%に設定したのに対し、C Spireは35%から45%と高めに設定したことだ。

C Spireはもともとワイヤレス事業の会社だったが、需要に応じて構築するというGoogle方式に感化されてギガビット市場に参入することを決断したという。従来の方式に比べてリスクが小さく収益性の向上も見込まれるからだ。

従来の方式であればギガビット事業を手がけることはなかっただろうと、同社のファイバ事業開発責任者は語り、それまでのギガビット事業がいかにリスクの大きなビジネスだったかを強調した。

「これからはGoogle方式が標準になる日がやってくる」と述べるのは、ミシシッピ州スタークビルのワイズマン市長。「ケーブルTV事業者も通信キャリアもネットワークのアップグレードは需要に応じて行うようになるだろう」としている。

4-19 Consolidated Communicationsがギガビットに参入

2014年11月、イリノイ州マットゥーンを本拠として11州でサービスを展開するConsolidated Communicationsが、ミズーリ州カンザスシティでGoogleに対抗し、1Gbpsのブロードバンドサービスを開始した。料金は月69.95ドルと、Googleより5セント安く設定した。

FTTP方式で下り、上りとも1Gbpsの速度を提供する。同社の前身であるEverest BroadbandがFTTPによるネットワークを2007に構築して各種サービスを提供してきたが、1Gbpsのサービスは需要がないとの判断からこれまで提供していなかった。

既に地中に光ファイバが張り巡らされていたため、スプリッタ・キャビネットを追加するだけでネットワーク側の準備が整った。同市における同社の顧客のうち2,500世帯がGoogle Fiberの提供地域と重複しているという。

4-20 Google Fiberがオースティンでサービス開始

Google Fiberのオースティンにおけるサービス開始は、当初2014年半ばを予定していたが、道路使用許可の取得に時間がかかり、数か月遅れることとなった。

2014年12月、GoogleはオースティンにおけるGoogle Fiberの料金等の詳細を発表し、事前申し込みの受付を開始した。受付の開始日が12月1日の月曜日だったため、サイバーマンデーをもじって「ファイバermanデー」と称した。

プランは「ギガビット+TV」（月130ドル）、「ギガビット」（月70ドル）、「ベーシックインターネット」（下り5Mbps、上り1Mbps。月額料金は無料）の3種類。一時金は300ドル。「ギガビット+TV」または「ギガビット」を1年契約すると一時金が免除される。「ベーシック」は一時金を月25ドルの12回払いにすることができる。

スモールビジネス向けには「ギガビット」のみを提供し、料金は月100ドルに設定した。

事前申し込みで基準をクリアした「Fiberhood」について、2015年1月から顧客宅内への光ファイバの引き込みを開始した。

4 - 2 1 VerizonはFiOSを拡張しない方針を維持

Verizonは、2015年1月、2014年第4四半期決算発表の場で、既にコミットした地域への光ファイバ敷設工事がまもなく完了する見込みであると述べた¹。

同四半期は22.3億ドルの純損失だったが、これは営業外収支の影響によるもので、有線事業に限れば売上高営業利益率は4.4%、前年同期は1.2%だったので大幅に改善している。それでも無線事業の利益率（23.5%）に比べると見劣りがする。

Verizonは引き続き有線部門への投資を抑えて無線部門に回す方針を維持することとした。光ファイバ敷設工事の「完了」により、さらなる利益率の向上を見込んでいる。

5 2014年はギガビットの年

Google Fiberや競合事業者によるギガビットの戦いはまだ続くが、この辺で2014年末までの主要事業者の活動について主な成果をまとめておきたい。

【図表11】ギガビットの戦い - 2014年末までの主要事業者の主な成果

事業者	主な成果
Google	カンザスシティ（2012.11）、プロボ（2014.1）で1Gbpsを開始、オースティンで1Gbpsの受付開始（2014.12）
TWC	カンザスシティで100/10Mbps（2012.12）、オースティンで300/20Mbps（2014.6）に増速
AT&T	オースティンで300Mbpsを開始（2013.12）後、1Gbpsに増速（2014.8）、ダラスで1Gbpsを開始（2014.8）。
Verizon	最上位プランを500/100Mbpsに増速（2013.7）、上り速度を下りと同じ速さに増速（2014.7）
Comcast	最上位プランを505/105Mbpsに増速（2013.9）
Cox	最上位プランを150Mbpsに増速（2014.7）、フェニックスとチェサピーク（2014.10）、アーバイン（2014.12）で1Gbpsを開始

（出典）各種資料をもとにKDDI総合研究所で作成

¹ <http://arstechnica.com/business/2015/01/verizon-nears-the-end-of-fios-builds/>

戦いはまだ緒に就いたばかりだが、Broadband Technology Reportが「2014年はギガビットの年」との見出しで伝えているように、この年はギガビットが賑やかだった¹。

同記事によれば、本稿で取り上げた事業者以外にも、公営の事業者やローカルの中小事業者などを含め、実に多くの事業者がこの年にギガビットサービスの提供を開始し、または提供する計画を発表している。

超高速インターネットを巡ってこれだけの事業者が動き出し、これだけ競争が活発化したということも、Googleがもたらした「Google Fiber効果」の一つとして加えておきたい。

今回は、各事業者の最近の動向をたどりながら、米国のブロードバンド事情の最新情報を明らかにする。

【執筆者プロフィール】

氏名：高橋 陽一（たかはし よういち）

経歴：KDD（現KDDI）にて海外通信事情の調査、サービス企画、海外の通信事業者との交渉、法人営業等を担当した後、1995年よりカリフォルニア支社（ロサンゼルス、サンフランシスコ）勤務。1999年より外資系通信事業者の日本オフィスに勤務。2006年より日本のIT企業にて米国現地法人の設立、運営等を担当。2010年4月よりKDDI総研にて特別研究員として、海外の通信市場・政策動向の調査分析に従事。2011年9月よりサンフランシスコ在住。

¹ <http://www.btreport.net/articles/2015/01/2014-the-year-in-gigabit.html>